

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
7月15日		バイオシミラーについて(部内研修)	ファイザー
7月29日		令和4年度「薬の値引き交渉術勉強会」	全国自治体病院協議会
8月16日		令和4年度ファーマシーマネジメントセミナー	神奈川県病院薬剤師会
8月20日	8月21日	日本フォーミュラリ学会オープンセミナー	日本フォーミュラリ学会
9月1日		第4回川崎市薬剤師会症候学研修会	川崎市薬剤師会
9月3日		CHUGAI Directors of Pharmacy Forum 2022 ～Challenges for the new era～	中外製薬
9月7日		2022年度第1回感染領域専門・認定薬剤師養成講習会	神奈川県病院薬剤師会
9月7日		9月薬学合同研修会	神奈川県病院薬剤師会
9月8日		神奈川がん薬物療法・専門薬剤師セミナー(第2回)	神奈川県病院薬剤師会
9月10日		第17期感染症倶楽部 on WEB	北陸感染症コンソーティアム
9月12日		JMDCオンラインセミナー「データを活用した医療機関の薬剤部門マネジメント」	株式会社JMDC
9月14日		第2回AST講習会	日本化学療法学会
9月16日		2022年度 第1回 薬剤部会オンラインセミナー	全国自治体病院協議会
9月17日	9月18日	第10回日本くすりと糖尿病学会学術集会	日本くすりと糖尿病学会
9月23日	9月25日	第32回日本医療薬学会年会	日本医療薬学会
10月1日		がん疼痛緩和のための医療用麻薬適正使用推進講習会	厚労省
10月12日		令和4年度全国都市立病院薬局長協議会・研修会	全国都市立病院薬局長協議会
10月13日		10月薬学合同研修会	神奈川県病院薬剤師会

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
10月14日		令和4年度感染制御専門薬剤師講習会 (第2回 web)	日本病院薬剤師会
10月15日		再発乳癌治療のチーム医療を考える～ 少数精鋭で取り組む乳腺外科医の工夫 ～	ファイザー
10月18日		緩和スキルアップ・フォローアップ研修 会	井田病院
10月19日		輸液の基礎・基本シリーズ	大塚製薬工場
10月20日		第4回川崎市薬剤師会症候学研修会	川崎市薬剤師会
10月25日		第69回日本化学療法学会東日本支部総 会	日本化学療法学会
10月27日		相模原地区研修会	神奈川県病院薬剤師会
10月29日		日本医療バランスト・スコアカード研究 学会 第19回学術総会	日本医療バランスト・スコアカ ード研究学会
10月29日		令和4年度 第1回横浜・川崎地区研修 会	神奈川県病院薬剤師会
11月1日	12月23日	がん専門薬剤師集中講座	日本病院薬剤師会
11月10日		11月薬学合同研修会	神奈川県病院薬剤師会
11月14日		神奈川がん教育外部講師育成WEBセミナ ー	神奈川県がん疾病対策課
11月15日		緩和スキルアップ・フォローアップ研修 会	井田病院
11月16日		第116回かわやくセミナー	川崎市薬剤師会
11月21日		令和4年度 第2回横浜・川崎地区研修 会	神奈川県病院薬剤師会
11月23日		Dr.RIKIの感染症倶楽部～今冬のかぜ/コ ロナ/インフルをどう見極める?～	ケアネット
11月26日	11月27日	第31回 BSC 導入ワークショップ	日本医療バランスト・スコアカ ード研究学会
12月4日		令和4年度病院薬剤師版バランスト・シ ョアカードセミナー	神奈川県病院薬剤師会

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
12月5日		2022年度 第2回 薬剤部会オンラインセミナー	全国自治体病院協議会
1月14日		慶應義塾大学関連病院第42回学術講演会	慶應義塾大学病院
1月17日		川崎市感染症セミナー	川崎市医師会・川崎市内科医会
1月22日		令和4年度病院薬剤師版バランスト・シコアカードセミナー	神奈川県病院薬剤師会
1月20日		第5回 SANDOZ Oncology Web Seminar 愛知県がんセンターにおける抗がん剤暴露対策と課題	サンド株式会社
1月21日		令和4年度 DI スキルアップ講座	神奈川県病院薬剤師会
2月2日		オピオイドの適正使用を考える会(LIVE配信)	塩野義製薬
2月3日		IPF Expert WEB	塩野義製薬
2月17日		薬局・薬剤師への期待～令和5年度薬価改定・安定供給等特例措置の対応、令和6年度改定に向けて～	メディコム
2月17日		中小病院診療所委員会横須賀地区研修会	神奈川県病院薬剤師会
2月19日		病院薬剤師の未来に向けた改革を考えるセミナー	日本病院薬剤師会
2月9日		2月薬学合同研修会	神奈川県病院薬剤師会
3月4日	3月5日	日本臨床腫瘍薬学会学術大会	日本臨床腫瘍薬学会
3月7日		第1回臨床推論研修会	神奈川県病院薬剤師会
3月14日		第117回かわやくセミナー	川崎市薬剤師会

(4) 看護部

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
4月	2023年3月 (264時間)	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	神奈川県立保健福祉実践教育センター
5月19日		看護補助者の活用推進のための看護管理者研修-2	神奈川県ナースセンター研修室
5月24日	5月27日	保健師・看護師等基礎実践コース	結核予防会結核研究所
5月29日		看護補助者活用推進のための看護管理者研修	川崎市ナースセンター研修室
6月10日		看護記録の質向上を目指して～形式監査・質監査～①	神奈川県看護協会
6月11日	6月12日	第36回ストマリハビリテーション講習会	横浜市立大学福浦キャンパス
6月30日	7月1日	第1回看護管理研修会	全国自治体病院協議会
7月5日	7月6日	主任看護師に必要なマネジメントの基礎知識①	神奈川県看護協会
7月11日	7月12日	感染リンクナースのための感染管理①	神奈川県看護協会
7月12日	7月15日	保健師・看護師等基礎実践コース(第3回)	結核予防会結核研究所
7月22日		看護の日常にある看護を考えよう①	神奈川県看護協会
7月	2023年1月 (40時間)	医療安全管理者養成研修(インターネット配信研修)	日本看護協会研修学校
8月4日	8月5日	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	日本看護協会
8月6日	8月9日	栄養サポートチーム研修	日本健康・栄養システム学会
8月22日	12月19日	保健師助産師看護師実習指導者研修	昭和大学保健医療学部
8月23日・31日 9月28日または29日		神奈川県看護職員認知症対応力向上研修	神奈川県
9月2日		中堅看護師支援研修～イキイキと働き続けるために～	神奈川県看護協会
9月16日		看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	神奈川県看護協会

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
9月21日		摂食嚥下障害のある患者の看護	神奈川県看護協会
9月28日		厚生労働省の定める看護職員認知症対応向上研修	神奈川県知事
10月6日	2月24日	認定看護管理者教育課程セカンドレベル	神奈川県看護協会
10月18日	10月21日	保健師・看護師等基礎実践コース（第4回）	結核予防会結核研究所
10月25日		入退院支援に関する研修	川崎市看護協会（川崎市総合自治会館）
10月	2023年3月 (204時間)	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	神奈川県立保健福祉実践教育センター
11月4日		フィジカルアセスメント（応用編）～複雑な状況を判断するために～②	神奈川県看護協会
11月10日		看護補助者の更なる活用推進のための看護管理者研修	全日本病院協会
11月15日		入退院支援に関する研修	川崎市看護協会（てくのかわさき）
11月16日		栄養サポートチーム研修	日本健康・栄養システム学会
11月27日		看護補助者の更なる活用推進のための看護管理者研修	全日本病院協会
11月28日		看護補助者の更なる活用推進のための看護管理者研修	全日本病院協会
12月5日	12月7日	糖尿病患者のフットケア	神奈川県看護協会

#### (5) 食養科

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
4月16日		第28回神奈川摂食・嚥下リハビリテーション研究会	神奈川摂食・嚥下リハビリテーション研究会
4月28日	6月30日	令和4年度診療報酬改定(栄養関連項目)説明会	日本栄養士会
5月10日		輸液の基礎・基本WEB勉強会	大塚製薬工場
6月15日		「診療報酬を1から学ぶ」研修会	日本栄養士会

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
6月17日		川崎市病院栄養管理部会 第1回研修会	川崎市病院栄養管理部会
6月20日		肝・腎領域における栄養管理セミナー	大塚製薬工場
6月26日		臨床栄養学セミナーⅠ	神奈川県栄養士会
6月28日		オンライントークライブ 「どうして今、人材育成なのか」	神奈川県栄養士会 医療事業部会
7月8日	8月7日	全国栄養士大会	日本栄養士会
7月21日		介護・多職種セミナー	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
8月1日	9月30日	日清オイリオ×ナースの星 WEB セミナー	日清オイリオ×ナースの星
8月4日		川崎南部摂食嚥下・栄養研究会 介護多 職種セミナー	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
8月23日		日本糖尿病協会 DMアンサンブル座談会	日本糖尿病協会
8月26日		「集中治療における栄養管理（総論・基 礎編）」	ネスレ日本株式会社
8月27日		介護・多職種セミナー	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
9月1日	9月7日	CKD栄養指導スキルアップセミナー	ヘルシーネットワーク
9月4日		第15回神奈川県糖尿病療養指導士認定機 構研修会	神奈川県糖尿病療養指導士認定 機構
9月11日		第29回神奈川県摂食・嚥下リハビリテー ション研究会	神奈川県摂食・嚥下 リハビリテーション研究会
9月14日		オンライントークライブ 「壁の乗り越え方」	神奈川県栄養士会 医療事業部会
9月26日		川崎南部摂食嚥下・栄養研究会 介護多 職種セミナー	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
10月1日	10月31日	がん栄養療法実践セミナー	日本栄養士会
10月8日		市民公開講座「肝がん治療の現状」	川崎市病院協会

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
10月19日		CKD 食事療法 conference 「CKD 患者への栄養指導の実際とオンライン栄養指導の活用」「CKD 患者のフレイルと私たちにできる食事・栄養療法」	キッセイ薬品工業株式会社
10月20日		嚥下調整食の実態と工夫について	キッセイ薬品工業株式会社
10月23日		臨床栄養学セミナーⅡ 「現場で生きる！ 摂食嚥下障害の臨床とアセスメント」	神奈川県栄養士会医療事業部会
10月28日		川崎南部摂食嚥下・栄養研究会 介護多職種セミナー	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
11月11日		川崎市病院栄養管理部会 第2回研修会 「今 知っておきたい輸液療法」について～提案の幅が広げられる経静脈栄養の管理～	川崎市病院栄養管理部会
11月25日		介護・多職種セミナー	川崎南部摂食嚥下・栄養研究会
12月5日		診療報酬セミナー「早期栄養介入加算」	ネスレ日本株式会社共催企画
12月10日		神奈川県医療専門職連合会 職能セミナー	神奈川県医療専門職連合会
12月12日		第2救急集中治療領域の栄養管理	ネスレ日本株式会社
12月15日	3月15日	第3回栄養部会オンラインセミナー	全国自治体病院協議会
1月30日		化学療法と亜鉛セミナー	
1月30日	2月28日	第20回病態栄養セミナー	武蔵野フーズ
1月13日	1月15日	第26回日本病態栄養学会年次学術集会	病態栄養学会
2月5日		栄養管理セミナー 「現場で生きる！ 厨房から患者に届ける安心・安全の嚥下食 ～ 理解と取組みのヒント～」	神奈川県栄養士会医療事業部会
2月26日		「糖尿病治療支援と地域連携を考える」	神奈川県糖尿病療養指導研究会

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
3月3日	3月13日	第42回食事療法学会	日本栄養士会
3月11日	3月26日	実践研究大会	神奈川県栄養士会
3月16日		オンライントークライブ 「わたしたちの働き方改革」	神奈川県栄養士会 医療事業部会
3月21日		症例から学ぶスキルアップセミナーin 神奈川	病態栄養学会神奈川ブロック

#### (6) リハビリテーションセンター

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
4月16日		第28回神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会	神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会
4月16日	4月17日	第34回ハンドセラピィ学会学術集会	日本ハンドセラピィ学会
6月4日		第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部学術大会	一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会関東支部
6月24日	6月25日	第23回日本言語聴覚学会	一般社団法人日本言語聴覚士協会
8月6日	8月7日	第44回日本呼吸療法医学会 学術集会	一般社団法人日本呼吸療法医学会
9月11日		第29回神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会	神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会
9月16日	9月18日	第56回日本作業療法学会	日本作業療法士協会
9月23日	9月24日	第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会
10月29日	10月30日	第9回日本サルコペニア・フレイル学会	一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会
11月11日	11月12日	第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
12月11日		第5回神奈川県臨床作業療法大会	神奈川作業療法士会

(7) 地域医療部・在宅緩和ケアセンター

開催日		名 称	学会・実施機関等
自	至		
6月2日		2022年度第1回神奈川県がん相談員研修会	神奈川県がん診療連携協議会
6月25日	6月26日	第70回日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会	日本医療ソーシャルワーカー協会
7月1日	7月2日	第27回日本緩和医療学会学術集会	日本緩和医療学会
8月		退院支援看護師として学ぶ、育成する要点	日総研
8月20日		入院時重症患者対応メディエーター養成研修会	日本救急医学会
9月21日	1月28日	医療対話推進者養成セミナー	病院機能評価機構
10月		2022年度がん相談員継続研修認定更新コース	国立がん研究センター
10月7日		2022年度第2回神奈川県がん相談員研修会	神奈川県がん診療連携協議会
10月25日		入退院支援に関する研修	川崎市健康福祉局
11月5日		看護管理者がイキイキ働ける労務管理	神奈川県看護協会
12月9日		2022年度第3回神奈川県がん相談員研修会	神奈川県がん診療連携協議会
12月23日		医療チームにおける心理的安全性	神奈川県看護協会
1月28日		入院時重症患者対応メディエーター実務者発表会	日本救急医学会
2月3日		結核指定医療機関等研修会	川崎市健康福祉局
2月5日		第43回東京消化器内視鏡技術研修会	東京消化器内視鏡技術会
2月24日		避けて通れない高齢者の退院支援	すこやか
2月25日	2月26日	第37回日本がん看護学会学術集会	日本がん看護学会
3月2日		西神奈川呼吸ケアセミナー	帝人ヘルスケア株式会社
3月15日		地域ケアカンファレンス	港北区・港北区内地域ケアプラザ

## 2 実習指導

### (1) 食養科

期 間	実習指導名	学 校 名	担当課	人数
2月6日～17日	臨床栄養臨地実習	神奈川工科大学	食養科	1

### (2) 薬剤部

期 間	実習指導名	学 校 名	担当課	人数
5月23日～8月7日	病院実務実習	横浜薬科大学	薬剤部	1
8月22日～11月6日	病院実務実習	慶應義塾大学	薬剤部	1
8月22日～11月6日	病院実務実習	横浜薬科大学	薬剤部	1

### (3) 看護部

期 間	実習指導名	学 校 名	担当課	人数
5月9日～5月12日	成人看護実践論ⅢB(緩和ケア)	神奈川県立衛生看護専門学校	看護部	2
5月9日～7月1日	老年看護学実習Ⅱ	川崎市立看護短期大学	看護部	39
5月9日～7月1日	在宅看護論	川崎市立看護短期大学	看護部	8
6月16日～6月17日	看護学概論	東京医療保健大学	看護部	7
6月20日～7月1日	統合実習(基礎看護学・看護管理学)	武蔵野大学	看護部	10
7月4日～7月7日	成人看護実践論ⅢB(緩和ケア)	神奈川県立衛生看護専門学校	看護部	3
7月11日～7月22日	基礎看護学実習Ⅱ	横浜中央看護専門学校	看護部	5
7月12日～7月19日	成人看護学実習Ⅰ(前半クール)	川崎市立看護短期大学	看護部	15
7月12日～7月21日	統合看護実習	東京工科大学	看護部	3
9月5日～9月13日	基礎看護実習(1クール)	武蔵野大学	看護部	18

9月20日～10月28日	老年看護学実習Ⅱ	川崎市立看護短期大学	看護部	29
9月25日～10月4日	基礎看護実習（2クール）	武蔵野大学	看護部	18
9月26日～9月29日	成人看護実践論ⅢB（緩和ケア）	神奈川県立衛生看護専門学校	看護部	2
10月17日～10月28日	在宅看護論	川崎市立看護短期大学	看護部	2
10月17日～10月20日	成人看護実践論ⅢB（緩和ケア）	神奈川県立衛生看護専門学校	看護部	2
10月31日～11月8日	老年看護学実習Ⅱ	聖路加国際大学	看護部	12
11月7日～11月17日	テーマ別看護論（終末期患者の看護論）	川崎市立看護短期大学	看護部	5
11月7日～11月17日	テーマ別看護論	川崎市立看護短期大学	看護部	10
11月21日～11月25日	基礎看護学実習Ⅰ（1クール）	川崎市立看護大学	看護部	20
11月28日～12月2日	基礎看護学実習Ⅰ（2クール）	川崎市立看護大学	看護部	20
12月5日～12月13日	終末期ケア実践（1クール）	慶応義塾大学	看護部	3
12月5日～12月15日	成人看護学実習Ⅱ（1クール）	川崎市立看護短期大学	看護部	15
1月16日～1月24日	終末期ケア実践（2クール）	慶応義塾大学	看護部	3
1月16日～1月26日	成人看護学実習Ⅱ（2クール）	川崎市立看護短期大学	看護部	15
合計				266



## VII 委員会



2022年度 院内各種委員会一覧  
 \*掲載内容は2022年度のもの

No.	名 称 目的や内容	委員長	役職	実施時期
1	医療安全管理委員会	伊藤 大輔	病院長	毎 月
	医療事故の防止策の企画立案、患者の安全確保、適切な医療の提供体制の確立、安全に係る委員会の統括			
2	医療安全部会	西尾 和三	内科部長	毎 月
	インシデントレポート・事故報告書の事例分析、安全対策の実施			
3	院内感染対策委員会	中島 由紀子	感染症内科部長	毎 月
	院内感染の予防策の作成、予防対策の監視・指導等による感染防止			
4	感染部会	中島 由紀子	感染症内科部長	毎 月
	患者・職員における感染対策の徹底と質の向上			
5	輸血療法委員会	中塚 逸央	麻酔科部長	隔 月
	輸血の安全確保、事故防止、輸血業務の適正・円滑な処理、血液製剤の有効利用の向上			
6	放射線安全委員会	福原 昇	放射線治療科部長	随 時
	放射線障害の防止、安全の確保、放射線発生装置の安全管理の徹底			
7	医療ガス安全管理委員会	中塚 逸央	麻酔科部長	年1回
	医療ガス設備の安全管理による患者の安全確保			
8	衛生委員会	鈴木 貴博	副院長	毎 月
	職員の健康障害の防止と健康の保持増進及び職場環境の改善			
9	働き方改革推進委員会	伊藤 大輔	病院長	随 時
	病院職員の勤務環境を改善する取組の推進、医師や看護職員の負担の軽減、処遇改善に関する取組計画を作成し、評価や見直しを行う			
10	薬事委員会	小林 岳	副薬剤部長	毎 月
	医薬品の適正管理、効率的な運用の審議、薬物療法の向上			
11	医療機器管理委員会	中塚 逸央	麻酔科部長	随 時
	院内に配置されている医療機器の管理・調整			
12	透析機器安全管理委員会	滝本 千恵	腎臓内科部長	随 時
	透析液水質確保加算の施設基準届出に必要となる適切な水質管理実施や透析機器等の管理計画の作成			
13	医療放射線管理委員会	山下 三代子	放射線診断科部長	随 時
	放射線診療のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばくその他放射線診療に関する事例発生時の対応等、診療用放射線の安全利用に係る管理			
14	医療事故防止対策委員会	西尾 和三	内科部長	随 時
	診療内容の監査機関			
15	治験・臨床研究倫理審査委員会	鈴木 貴博	副院長	毎 月
	倫理的、科学的及び医学的妥当性の観点から治験・臨床研究の実施及び継続の審議			
16	倫理委員会	掛札 敏裕	副院長	随 時
	医療行為に関し、倫理的・社会的観点からの審査			
17	保険委員会	岩田 壮吉	婦人科部長	毎 月
	保険診療及び保険請求の適正化向上			
18	DPC委員会	荒川 清隆	医事課長	毎 月
	DPC制度に関する研修の実施			
19	診療情報管理委員会	水谷 憲生	整形外科部長	毎 月
	入院外来等診療情報の管理・運用の向上、システムの検討			
20	診療録管理委員会	金澤 寧彦	糖尿病内科部長	毎 月
	サマリの作成、推進、管理、カルテ、訪問記録の質的向上の検討			
21	救急医療運営委員会	田熊 清継	救急総合診療センター所長	毎 月
	救急医療の取り組みの充実・強化			
22	当直検討部会	鈴木 貴博	副院長	毎 月
	当直業務における問題点、課題の共有と解決策の検討			
23	災害時医療等委員会	鈴木 貴博	副院長	毎 月
	災害医療に関する準備、企画検討、訓練の実施			
24	地域連携委員会	原田 裕子	血液内科部長	毎 月
	地域の医療機関との連携及び支援の推進、地域医療支援病院の認定を図る			
25	地域がん診療連携拠点病院推進委員会	嶋田 恭輔	乳腺外科部長	毎 月
	地域がん診療連携拠点病院としての体制整備・推進			

No.	名 称	委員長	役職	実施時期
	目的や内容			
26	がん患者の病態に応じた、より適切ながん医療の提供を図る	嶋田 恭輔	乳腺外科部長	随 時
27	化学療法管理委員会 実施される化学療法のレジメン（治療内容）の妥当性の評価・承認	西尾 和三	内科部長	毎 月
28	クリニカルパス委員会 クリニカルパスの作成・運用	中塚 逸央	麻酔科部長	毎 月
29	褥瘡対策委員会 褥瘡対策の企画立案、対策の推進、管理・運営	安西 秀美	皮膚科部長	隔 月
30	NST(栄養サポートチーム)運営委員会 栄養管理を通し、安全で効率的な医療サービスの提供へ寄与	栗原 夕子	内科担当部長	毎 月
31	嚥下・口腔サポートチーム部会 嚥下評価や口腔ケア、摂食環境などの環境整備を図る	此枝 生恵	耳鼻咽喉科医長	随 時
32	給食委員会 食事療法の質の向上	栗原 夕子	内科担当部長	隔 月
33	職員研修委員会 教育研修に関する企画・実行・評価による職員の資質の向上	鈴木 貴博	副院長	随 時
34	研修管理委員会 初期臨床研修の企画立案、運用管理	金澤 寧彦	糖尿病内科部長	随 時
35	看護師特定行為研修部会 地域における医療・介護の総合的な確保を推進するため、特定行為を実施する看護師を計画的に養成	鈴木 貴博	副院長	随 時
36	図書委員会 図書室の適正な運用と医療情報の収集・提供による職員の業務の向上	金澤 寧彦	糖尿病内科部長	毎 月
37	機種・診療材料選定委員会 導入する機器の仕様決定、公平かつ適正な機種確保及び医療機器の試用の検討、効率的な物品調達	掛札 敏裕	副院長	随 時
38	市民交流・サービス向上委員会 患者サービスの向上及び職場環境の向上	藤原 実香	副院長	毎 月
39	ホームページ・広報委員会 ホームページの管理、広報「井田山」の編集企画、発行管理	田中 良典	事務局長	随 時
40	臨床検査管理委員会 臨床検査の適正化・能率化を図る	岩田 壮吉	検査科部長	随 時
41	外来診療委員会 外来診療に関する諸問題の調整・検討	西尾 和三	内科部長	随 時
42	手術部委員会 手術室の有効な運営管理を図る	中塚 逸央	麻酔科部長	毎 月
43	HCU委員会 HCU・CCUの有効な運営管理を図る	西尾 和三	呼吸器内科部長	隔 月
44	院内がん登録運用委員会 地域がん診療連携拠点病院の指定要件A項目に追加された要件、「院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関（委員会）を設置している」への対応	掛札 敏裕	副院長	随 時
45	地域包括ケア病棟運営委員会 地域包括ケア病棟への入院の可否の判定、入院順位の決定、その他入院に関すること	水谷 憲生	整形外科部長	隔 月
46	緩和ケア委員会 緩和ケアの提供、運用が適切・円滑に行われるよう体制の整備・促進を図る	佐藤 恭子	緩和ケア内科部長	毎 月
47	がんサポート・緩和ケア部会 がん患者とその家族に対し、質の高い緩和ケアを提供し、QOLの向上を目指す	久保田 敬乃	緩和ケア内科担当部長	随 時
48	病床管理運営委員会 病床の適正な管理運営を図るとともに、病棟の個室料金についても検討する	掛札 敏裕	副院長	随 時
49	ハラスメント防止対策委員会 セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント及び妊娠・出産・育児又は介護に関するハラスメントの防止及び対策を講じる	伊藤 大輔	病院長	随 時
50	糖尿病サポートチーム運営委員会 糖尿病ケアの向上	金澤 寧彦	糖尿病内科部長	毎 月
51	認知症ケア委員会 認知症ケアの質の向上	荒井 亮輔	呼吸器内科医長	毎 月

## 1 医療安全管理委員会

毎月第4木曜日を定例日として開催しました。医療安全部会を下部組織に持ち、院内感染対策委員会、輸血療法委員会、放射線安全委員会、医療ガス安全管理委員会、衛生委員会、薬事委員会、医療機器管理委員会を統括しており、各委員会での決定事項の周知の徹底と提案事項の検討及び承認、懸案事項についての検討を図りました。

(文責 書記[庶務課] 岡本 拓郎)

## 2 医療安全部会

毎月第3火曜日を定例日として、各部門の毎月のインシデント報告の集計や医療安全情報の共有とともに、個々の事例の原因分析や再発防止策の具体的検討などを行いました。

2022年度は医療安全管理マニュアルを見やすい、活用できる表記の視点で見直しし、全面改訂を行いました。また医療安全週間を活用し、医療安全啓蒙活動推進のためのポスターを各部門で作成し外来廊下へ掲示しました。外来患者さんに「いいね投票」をして頂き院内の医療安全への取り組みを共有しました。今後も、患者参加型の医療安全推進活動に取り組んでいきます。

(文責 書記[庶務課] 岡本 拓郎)

## 3 院内感染対策委員会

毎月第2月曜日に開催しています。内容として、BSI(中心静脈カテーテル由来血流感染)、UTI(尿道留置カテーテル関連尿路感染)、SSI(手術部位感染)サーベイランス結果、針刺し・切創・粘膜曝露の報告、研修会開催の周知、感染症発生の際には事例報告と対策の共有、院内ラウンド結果共有を行います。検査科からは血液培養2セット率・転入院患者の保菌状況・耐性菌検出状況・一般細菌培養検査とAST(抗菌薬適正使用支援チーム)介入状況報告があります。薬剤部からは、届出対象抗菌薬の使用状況、長期使用患者数、AST介入状況等について報告があります。

新型コロナウイルス感染症流行下にあつて、医療従事者(委託業者含む)や患者さん等病院内の全ての人がマスクを着用するユニバーサルマスクングと手指衛生励行に努めています。さらにワクチン接種やマニュアルに沿った感染対策の対応で院内感染防止に努めています。

(文責 副委員長[感染対策室] 福島 貴子)

## 4 感染部会

感染部会は院内感染対策委員会の下部組織として設置し、日々の対策の見直し・改善・啓発活動に取り組んでいます。部会構成部署として、診療部・看護部・薬剤部・検査科・放射線科・リハビリテーション科・ME管理室・食養科・事務部門で構成、組織的な活動を継続して実施しています。

取り組み内容として

(院内教育) 全職員が年2回の研修会に参加できるよう部門毎に参加者の名簿を配布し、研修会参加への働きかけを行いました。新型コロナウイルス感染症流行下において、集合教育が困難な時期にはDVDを利用し部署ごとの視聴会実施や、研修会資料配布による確認テストを実施しました。

(業務見直し) 主に部門ごとのマニュアルや手順書の見直し・修正を実施しました。昨年度作成した環境清拭ワイプ使用方法と感染症対応フローについて使用状況の確認と再周知を行いました。今後も適宜見

直しを行い、対策の実施に取り組んでいきます。

(手指衛生) 感染対策の基本となる手指衛生を推進するため、毎月の使用量調査や啓発活動を実施しました。個人使用量の上位ランク者や職種別・部門別使用量ランク等についてポスターを作製し掲示しました。今後も適切な場面で手指衛生が実施できるよう調査の実施やフィードバックによる啓発活動を行っていきます。

(院内ラウンド) 電子カルテ端末、个人防护具、感染性廃棄物について調査し、結果を掲示・フィードバックを行いました。今後も感染対策の観点から、院内の様々な場所をラウンドし現状調査と改善策の提示を行っていきます。

(文責 副部長 [感染対策室] 福島 貴子)

## 5 輸血療法委員会

2022 年度の輸血療法委員会は、6 回開催しました。血液製剤の使用状況や院内輸血療法に関する問題点、改善点等を中心に、輸血療法の適正化に努めました。

### 1. 主な検討項目

- ① 院内統一輸血マニュアルの改訂
- ② 大規模災害時血液製剤準備指示書・同意書の作成

### 2. 輸血用血液製剤の使用状況

輸血管理料Ⅱ(110 点)+適正使用加算(60 点)取得しています。

血液製剤	単位数
赤血球製剤	1,924
新鮮凍結血漿製剤	86
濃厚血小板製剤	1,305
HLA 適合血小板製剤	0
洗浄血小板製剤	0
自己血	91
合計	3,406
輸血患者数(実人数)	453
FFP/RBC 比(0.27 以下)	0.04

アルブミン製剤	本数
高張アルブミン [12.5g/50ml/瓶]	377
等張アルブミン [11.0g/250ml/瓶]	23
アルブミン使用量(g)	4,965.5
アルブミン使用量(単位)	1,655.2
投与患者数(実人数)	92
アルブミン使用比(2.0 以下)	0.8

### 3. 副作用報告

副作用発生は 20 名、21 症状でした。副作用報告内訳は以下の通りです。

投与製剤	赤血球製剤	新鮮凍結血漿製剤	血小板製剤	自己血	合計
報告数	16	2	2	1	21

赤血球輸血において TACO(輸血関連循環過負荷)と診断された症例が 1 例ありました。

### 4. 院内研修会

本年度は、2 回開催しました。

第 1 回 2022 年 7 月 29 日「安全な輸血のために」

講師 神奈川赤十字血液センター学術課 中村圭太氏

第2回 2023年3月 「輸血副反応について学ぼう」(誌面開催)

編集担当 検査科 矢野佐知子

第1回は新人輸血関連職員を対象に、第2回はCOVID19流行の影響を受け昨年度に引き続き誌面開催とし、関係職員への研修を実施致しました。

本年度も無事故であったことを皆様に感謝致します。

(文責 委員会事務局 矢野 佐知子、委員長 中塚 逸央)

## 6 放射線安全委員会

放射線安全委員会は、放射性同位元素等の規制に関する法律により定めた井田病院放射線障害予防規程に基づき放射線発生装置及び関連する施設並びに設備を安全に管理運用するために必要な事項について調査及び審議を行っています。

本年は放射性同位元素等の規制に関する法律第12条の9及び第12条の10の規定により、5年に1回放射線施設の定期検査・定期確認を受けることが義務付けられており、その該当年度にあたるため、9月30日に検査を受審し、「所定の基準に適合する」と判断され、10月5日付で合格証が交付されています。

「放射線障害予防規程に定める事項に関するガイド」が原子力規制委員会より発出され、「線量測定の信頼性の確保及び放射線測定器の点検・校正に係る措置の取り入れ等」を当院の放射線障害予防規程に盛り込み、放射性同位元素等の規制に関する法律第21条3項の規定により、放射線障害予防規程変更届を原子力規制委員会へ提出しています。

当委員会は2023年2月、書面による持ち回り会議により開催し、審議の結果、全員意義なく承認されています。

主な審議事項は以下のとおりとなります。

- ・放射線業務従事者の管理状況について
- ・放射線施設自主点検結果について
- ・医用放射性廃棄物の廃棄状況について
- ・放射線治療関連機器の管理状況について
- ・放射線計測器の標準校正について
- ・放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく定期検査・定期確認の受審について
- ・放射線障害予防規程変更届の提出について

(文責 委員長 [放射線治療科 部長] 福原 昇)

## 7 医療ガス安全管理委員会

2022年度は、3月1日(水)に委員会を開催しました。

2021年度の医療ガス設備保守点検は、6・9・12・3月に行なわれ、各病室等に設置しておりますアウトレットバルブやスライドベースに各所で緩みがありましたので、増し締めして対応しております。その他には異常がないことを確認しました。その他の点検以外の措置として、No.1、2コンプレッサーの中間整備

を行いオートドレン、Vベルト及びゲージ圧力を交換しております。他には空気除湿装置(エアラインスターE900D)No.1ラインのプレフィルター、アフターフィルター、ファインフィルター、ファイナルフィルターが劣化していたため交換しております。その他は大きな異常はありませんと報告がありました。

また、CE設備定期自主検査においても2021年7月、2022年1月に行われそれぞれ「異常なし」の報告がありました。

医療ガス設備の日常点検についても、異常や故障等はありませんでした。

2021年度病院立入検査(医療監視)の中で医療ガス設備の書類審査を行いました。特に指摘事項等はありませんでした。

医療ガス安全点検に係る業務の監督責任者に中塚委員長、実施責任者に毛利副委員長が任命されました。

(文責 書記 [庶務課] 八十島 大輔)

## 8 衛生委員会

### 【構成】

衛生委員会は、毎月第3木曜日に開催し、今年度は12回開催しました。

委員の構成は医師5名(産業医4名含)、衛生管理者1名、看護師2名、診療放射線技師1名、庶務課事務職1名、労働組合員5名、保健相談員1名の計16名となっています。

労働安全衛生法第18条に基づき、職員の健康障害の防止と健康の保持増進および快適な職場環境の形成促進を目的としており、公務災害の原因および再発防止対策で衛生に係わるもの、その他衛生管理に関する事項について調査・審議しました。

### 【定期健康診断等】

例年のとおり、定期健康診断(雇入れ時健診・人間ドック含む)、深夜業務従事者健康診断、電離放射線業務者健康診断などの健診、HBV検査を行いました。表1に健康診断受診状況を示します。

### 【各種ワクチン接種】

抗体価の著しく低い職員に対し、B型肝炎、麻疹、風疹、水痘及びムンプスのワクチン接種をしました。また、秋には原則的に全職員に対し、インフルエンザワクチンの接種を行いました。表2に接種状況を示します。

### 【公務災害等】

2022年度の公務災害及び通勤災害の認定請求件数は9件でした。針刺し事故の中で、血液媒介型感染リスクのあるものは0件でした。表3に請求状況を示します。

### 【職場巡視】

産業医・衛生管理者の視点から、安全衛生についての目的を定めて巡視を行い、各職場へのフィードバックに努めました。

(文責 書記 [庶務課] 鹿島 倫江)

表 1 2022 年度 定期健康診断等受診状況

健康診断（検診）の内容	対象者（人）	受診者（人）	受診率（%）
定期健康診断	687	672	97.8%
電離放射線健康診断（前期）	103	99	96.1%
電離放射線健康診断（後期）	103	94	91.3%
有機溶剤等取扱者健康診断（前期）	9	8	88.9%
有機溶剤等取扱者健康診断（後期）	8	7	87.5%

表 2 2022 年度 ワクチン接種状況

ワクチンの種類	接種者数（人）
HBワクチン	26
麻疹ワクチン	34
風疹ワクチン	6
麻疹風疹混合ワクチン	20
水痘ワクチン	2
ムンプスワクチン	31
インフルエンザワクチン	880

表 3 2022 年度 公務災害請求状況

疾病名	職種	被災日	治療	種類
左手中指刺傷	臨床検査技師	2022/6/13	通院	公務災害
右内腿打撲	看護師	2022/6/17	通院	公務災害
左手関節捻挫、左肘関節捻挫	看護師	2022/6/20	通院	公務災害
外傷性擦過傷	看護師	2022/7/12	通院	公務災害
膝部外傷性潰瘍	看護師	2022/8/3	通院	通勤災害
ヒト交傷	看護師	2022/8/13	通院	公務災害
右手第3指刺傷	臨床検査技師	2022/8/23	通院	公務災害
腰椎捻挫、右股関節挫傷、右大腿骨頸部骨折	看護助手	2022/11/18	入院・通院	公務災害
交傷	看護師	2022/12/29	通院	公務災害

## 9 働き方改革推進委員会

働き方改革推進委員会は、井田病院に勤務する病院職員の勤務環境の改善、医師及び看護職員の負担の軽減ならびに処遇の改善に関する取組計画を作成し、評価や見直しを行うことを目的としています。当委員会を設置するまでは病院職員の勤務環境等については他の会議や委員会等で議論していましたが、2018年2月に厚生労働省の医師の働き方改革に関する検討会より「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」が示されたこともあり、川崎市病院局の方針として井田病院においても、2018年10月に当委員会を独自に設置する運びとなりました。

委員会では、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の評価及び見直しを行うほか、医師労働時間短縮計画の作成やタスクシェアの課題等についての意見交換を行いました。また、各医師の時間外勤務実態を把握し、必要に応じて院長ヒアリングを行う等、長時間勤務の是正に努めました。

さらに、2024年4月1日から施行される改正医療法により、医師に対する時間外労働の上限規制が適用されることから、医師の長時間労働削減の取り組みの一つとして、HCU及び緩和ケア当直に宿日直許可を2023年3月22日に取得しました。

今後も病院職員の勤務環境改善のため委員会としての役割を担っていきたいと考えております。

(文責 委員長〔病院長〕 伊藤 大輔)

## 10 薬事委員会

薬事委員会は、開催日を毎月第4月曜日と規定し、2022年度は10回開催しました。委員の構成は、医師8名、看護師1名、検査技師1名、医事課事務職1名、薬剤師2名の計13名です。

院内・外で使用する医薬品や検査試薬等に関する新規採用の可否および採用中止薬品についての審議のみならず、医薬品に関する様々な情報の共有や、問題点の検討等も行っております。

### 1. 院内院外共通採用薬及び院外専用採用薬の審議について

新規採用の申請医薬品は「薬事委員会要綱」に基づいて審議し、その結果を院長等に答申し、承認を得て使用可能となります。

2022年度に答申・承認された医薬品は、院内院外共通採用薬：34品目（規格切り替えを除く）、院外専用採用薬：16品目でした。また、一定期間使用実績のない薬品について、院内採用を取りやめる取り組みを行うことにより、採用薬品数の削減にも努めています。

後発医薬品への切り替えも鋭意進めており、2022年度末における後発医薬品使用率（数量ベース）は、88.9%であり、国の指標とする80%をクリアしています。

### 2. 薬事委員会の議事録要旨

薬事委員会の議事録要旨は、その都度、電子カルテトップ画面、薬事委員会からのお知らせに掲示しています。

(文責 書記〔薬剤部〕 北村 充)

## 11 医療機器管理委員会

医療機器管理委員会は医療機器における保守点検計画の策定、保守点検の実施確認、医療機器教育研修、医療機器安全情報周知等、医療機器の運用・管理について検討しています。毎月第4水曜日に開催し、2022年度の主な活動内容は以下の通りです。

- ① 医療機器購入廃棄情報の集約と配置状況の確認。
- ② 医療機器年間保守計画書の作成と実施確認。
- ③ 委員会による医療機器研修の実施と部署研修の把握。
- ④ 医療機器安全情報の共有と検討。

今後も医療機器管理委員会では医療機器の適正な運用・管理に努めてまいります。

(文責 副委員長〔MEセンター担当係長〕 千葉 真弘)

## 12 透析機器安全管理委員会

透析で使用する透析用水は、洗浄・準備・治療における全ての工程で使用するため、適切な検査と管理が求められます。当委員会では透析に使用する水質検査や、透析装置のメンテナンス状況を毎月確認し、問題発生時には改善に向けて検討を行っています。2022 年度も適切な検査と管理のもと、透析用水は高い清浄度を維持できています。今後も細心の注意を払い水質検査のほか、透析装置や関連機器の適切な管理に努めてまいります。

(文責 副委員長 [MEセンター担当係長] 千葉 真弘)

## 13 医療放射線管理委員会

医療法施行規則の一部を改正する省令(平成 31 年厚生労働省令第 21 号 2020 年 4 月 1 日施行)に基づき、診療用放射線の安全かつ有効な利用を確保するため、各施設で「診療用放射線の安全利用のための指針」を定めることが義務化され、この指針に基づき運用を行っております。当委員会は、その指針に基づいて調査及び審議を行うものとして位置付けられております。

当委員会は 2022 年 3 月、書面による持ち回り会議により開催し、審議事項は全員意義なく承認されております。報告事項は以下のとおりとなります。

### 1) 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全利用のための研修について

研修方法は、事前に「放射線の正当化に関する事項」のテキスト及び確認問題を配布し、回収するという手法を採用しております。

研修対象者は 207 名(69.5%)とし、その内訳は、医師 92 名(56.5%)、病棟看護師 24 名(100%)、外来看護師 40 名(90%)、臨床工学技士 7 名(71.4%)、診療放射線技師 22 名(100%)、管理係 1 名(100%)、医師事務 21 名(100%)、となっております。なお、カッコ内の数値は確認問題の回収率を示します。

### 2) 線量管理の対象となる医療機器に応じた実施記録の管理について

CT の線量管理については、CT 診断参考レベルの線量と当院の CT 線量との比較を行い、その最適化について検討を行っております。

### 3) 診療用放射線の安全利用のための指針の改定について

医療放射線管理責任者の要件に関する事項の内、医療放射線管理責任者が職務を行うことができない期間中、その職務を代行させるため、代理者の選任について追加しております。

なお、本指針は、電子カルテのトップページ お知らせ欄の「放射線科」に掲載されています。

(文責 委員長 [放射線診断科部長] 山下 三代子)

## 14 医療事故防止対策委員会

医療事故防止対策委員会は、医療事故の原因究明と再発防止を目的に開催します。今年度は 5 回開催しました。

(文責 [医療安全管理室] 小海 照美)

## 15 治験・臨床研究倫理審査委員会

本委員会は、井田病院において実施予定の治験や臨床研究について、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から、実施の妥当性を審査しています。

2022年度は6回開催し、治験0件、臨床研究13件、製造販売後調査3件について審査を行いました。本委員会の手順書、委員名簿及び議事録は、井田病院のホームページに掲載しています。

(文責 委員会事務局 [薬剤部] 杉本 裕基)

## 16 倫理委員会

当委員会は、院内で行われる医療行為及び医学の研究について、倫理的、科学的及び社会的観点から審査を行うことを目的としておりますが、2022年度は検討課題がありませんでした。

(文責 書記 [庶務課] 岡本 拓郎)

	開催日	検討課題	審議の結果
		なし	

## 17 保険委員会

当委員会は、保険診療及び診療報酬請求の適正化・向上を目的として活動しています。

委員の構成は、医師18名、看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務職員5名の計27名です。

査定内容を審査支払機関ごとに分析し、医学的判断による査定については積極的に再審査請求を実施した結果、2022年度の査定率は0.1%となりました。

保険診療の適正化及び診療報酬請求の精度向上の取り組みとして、岩田壮吉婦人科部長による勉強会「保険診療とレセプト審査」を実施しました。初期研修医及び専攻医を中心に55名が参加し、保険医療制度や保険医療費担当規則について理解を深めました。

今後も適正な保険診療・診療報酬請求が行えるよう活動を継続して行ってまいります。

(文責 書記 [医事課] 横倉 悦美)

## 18 DPC委員会

当委員会は、「適切なDPCコーディング」を行う体制の構築・維持を目的とし活動しています。

委員の構成は、医師18名、看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務職員5名(診療情報管理士2名)の計27名です。

当院はDPC対象病院として12年目となりました。

DPC勉強会では、初期研修医及び専攻医を中心に55名が参加し、DPC制度の概要について理解を深めました。

2003年の発足当初は1860で開始した診断群分類も今では4000を超え、より精度の高いDPCコーディングが求められています。今後も医師、診療情報管理士、DPC担当者が協力し適切なDPCコーディングができるよう、体制の構築・維持に努めてまいります。

(文責 書記 [医事課] 横倉 悦美)

## 19 診療情報管理委員会

本委員会は医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、医事課、庶務課、富士通のシステムエンジニア(以下、S.E)等の委員で構成されており、病院業務の中で生じた電子カルテ等のシステム上の問題点

を、その都度各部署から挙げていただき、本委員会で検討のうえ、S.E を通じて修正することにより病院業務が円滑に行えるようにしています。

今年度は、11 回委員会を開催しました。

12 月には電子カルテのレベルアップが行われ、皆様の御協力により円滑に終了いたしました。来年度においても、1 月に電子カルテのレベルアップを行う予定でありますので皆様の御協力をお願い申し上げます。

(文責 委員長〔整形外科部長〕水谷 憲生)

## 20 診療録管理委員会

2012 年度に診療情報管理委員会の部会として組織されていた診療録管理部会は、2013 年度から委員会に昇格して活動を開始しました。

2022 年度は、4 回委員会を開催しました。

2020 年度病院機能評価において指摘を受けた診療記録等の量的点検については、運用面での課題を話し合いました。また、診療記録等の量的点検マニュアルの 3 役会議での承認及び運営会議での周知、並びに各診療科への配布について、検討しました。

電子カルテ内に新規登録や変更を提案された帳票については、承認、修正などの審査を行いました。さらに今年度は、同意書について、患者さんの視点に立って、適切な書式、レイアウトとなっているかについて議題として取り上げ、委員が意見交換しました。来年度は、この点について、関係部署の意見を踏まえて、さらに議論を深めていく予定です。

来年度も今年度に引き続き、退院後 2 週間以内のサマリー作成率の向上、並びに診療情報管理規程の改定作業に引き続き取り組むとともに、川崎病院とも連携し、入院、外来の紙の診療記録等の保存期間の統一について議論を行う等、委員会としても積極的に活動をしていく予定です。

(文責 委員長〔糖尿病内科部長〕金澤 寧彦)

## 21 救急医療運営委員会

当委員会は、突然の傷病で救急搬送される方々や、緊急受診される方々や、あるいは院内で急変される方々に迅速に対応し応急処置を提供するため、救急センター（現：救急総合診療センター）を基軸とした救急医療体制を構築・整備することを目的に設置されました。診療科間の協力体制の構築、当直業務の検討（部会）、救急隊との連携、救急関連医療資材の検討・救急教育や研修会の企画（部会）、災害時医療等委員会との連携、などをおこなっています。委員会開催日は、毎月第 2 水曜日です。

救急総合診療センターは開設から 8 年目となりましたが、2019 年度より市立川崎病院との連携を強化し、2020 年度からは準夜においても、より多くの救急傷病に対応可能な体制に更新しました。

救急総合診療センターの受入拡大に向け、昨年度に引き続き、応需可能な診療内容の見直しや小児用救急カートの整備を実施しました。また、2022 年 7 月には、中原区・二次救急当番制の試行を開始し、2022 年度の救急車応需数は 2,923 件（2021 年度 2,392 件）と増加しました。

今後も「断らない救急」の確立に向けて、救急医療体制の構築・整備に努めてまいります。

(文責 〔救急総合診療センター長〕田熊 清継)

## 22 当直検討部会

当直検討部会は、2019年度に「当直業務の課題解決に向けた検討会」として立ち上げられ、当直時間帯における運営方針や協力体制、院長代行の業務などについて検討を行い、「当直業務に関する合意事項」を定めるなど、当直業務に関する様々な諸課題の解決に向けて関係者による協議を行ってまいりました。2020年度からは救急医療運営委員会の部会として正式に院内委員会組織に位置付けられたところです。

2022年度は全7回の部会を開催し、医師当直簿のコメント記載欄に記入された内容について毎回の部会で検証を行うとともに、緩和ケア内科のオンコール体制や中原2次火金土当番制などについて検討を行い、その内容については親会である救急医療運営委員会に上げて決定し、決定した内容を電子カルテトップページに掲示し、関係者間で情報共有を図るなど対策を講じました。

今後も引き続き、当直業務の様々な諸課題について、改善に向けて協議を行ってまいります。

(文責 書記 [医事課] 五十嵐 大介)

## 23 災害時医療等委員会

当委員会は、救急医療検討委員会の下にあった災害時医療専門部会が2015年4月に委員会に格上げされたことにより設置されました。毎月第2木曜日を定例日として開催し、災害時医療に関する事項について約50人の委員で協議、検討しました。

当院は令和4年7月1日付で神奈川県の災害拠点病院に指定され、災害時に担う役割が大きくなってきています。

2022年度の主な実績としては、①事業継続計画(BCP)の大幅改訂 ②消防訓練の実施③県内医療機関間での情報伝達訓練等の通信訓練の実施 ④D-HIMS(災害用情報共有ツール)の導入・稼働に向けた活動⑤災害時に備えての物品購入等があります。①については、グループ活動を通して災害拠点病院にふさわしい実効性の高い事業継続計画(BCP)の作成に努めました。当委員会では今後も多くの訓練、研修会等を通じて更なる災害時医療の強化に努めてまいります。

(文責 書記 [庶務課] 久保 明子)

## 24 地域連携委員会

地域連携委員会は、「当初、地域の医療機関との連携、支援を推進する。」ことを目的として、2014年度に発足しました。

### 1 2022年度の実績

#### (1) 委員会開催実績

2022年度は、委員会を11回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。